カンヌ花火芸術祭

「共鳴し合う音」の　見どころ

日本の美学として、散りゆく美しさ、去り際の美しさがあります。日本の花火では、消え口の揃った花火（星が消えるタイミングが揃っていること）が美しいとされています。

今回のショーでは、この点を意識しており、花火が点滅しながらゆっくりと消えてゆく時の情緒と、見るものの感情がシンクロするようなシーンや、花火が消えゆく直前の色の変化を取り入れました。

今回のショーのイメージやシーンにあわせて、火薬の燃焼効果を設計して花火を製造しましたので、是非、響きの最後までご注目ください。

ポイント1：ショーの始まり

始まりは鼓動と抑揚感をテーマにしています。これにより、この作品の世界にのめり込ませたいという意図があります。何かが迫ってくるかのような緊張と注目でボルテージを高め、ショーが幕を開けます。

ポイント2：日本らしさの表現

日本らしい花火の美しさを伝えるには、どのような音楽にのせて届けるべきかにこだわりました。また、それを海外の方にどのように伝えることが出来るのかを考えながらショーをデザインしました。

日本のアニメや映画の楽曲を日本の伝統的な楽器の音と組み合わせ、海外のアーティストが日本をイメージして作曲した曲もあえて取り入れることで、それを効果的に伝えたいと思っています。

ポイント3：演出技法について

ショーは、夜空の上下空間のデザインを意識しています。

一瞬をファインダーで切りとり、キャンバスとして絵になるシーンを作っていますが、これは、日本の花火シーンでよく取り入れられる手法です。

花火が開く音にも意識しています。開花音と音楽のリズムを重ね合わせるシーンに、ぜひご注目ください。

また、それぞれの曲やシーンごとに基本となる花火の色を統一することで、ショー全体をとおして見た時に、それぞれのシーンが印象として残ることを意識しています。

そして、花火を打たない時間もあえて設定されています。その時間に、見ている方々は、気持ちを整えることができ、そして、次のシーンへと向かっていくことができます。映画を見ているかのように、見た時の感情をひとつひとつ整理しながら、次のシーンへとコマを進めています。

最後に

様々な仕掛けや工夫を取り入れながら、最後には「壮大な作品を見た」と感じてもらえたら、作り手としては最高です。どうぞお楽しみください。

㈱イケブン　工場長

（清水みなと祭り海上花火大会プロデューサー）

上田　昇弘